

- (5) 審査員 平井 博（福大教授）  
高田一郎（俳優座 舞台装置）  
大塚道子（俳優座 演技）

(6) 入賞

部門	最 優 秀	優 秀	努力賞
高校	会津女子	磐城女子	原町高
職場	なし	常磐労組 文化部	
一般	しのぶ演研	喜多方演研	会津演研

個人賞としては高校、一般から10人づつを演技、舞台装置に分けて授与した。

- (7) 審査評 目だったのは地域差がなくなったことで、とくに昨年比較のおとっていた浜通り地区がのびてきたので、本県高校生の演劇も全国的水準に達したといえる。

**F 第3回青少年演劇研究発表会**

文部省の助成により昨年に引き続き第3回の研究発表会を開催し、各地区の演劇研究書の組織化に努力した。

(1) 青少年の演劇指導者講習会

期日 9月26日～27日  
会場 飯坂町 県婦人会館  
講師 北条明直，広渡常敏，増見利清，滝尾輝雄，大塚道子  
参加者 高校関係 110名  
一般 65名  
内容 アマチュア演劇について  
創作脚本のつくり方  
装置，照明，メイクアップ  
演技，試演の分解指導  
実践発表と協議

(2) 青少年演劇研究発表会

研究を委嘱してある県内青年演劇団体の上演と各地区演劇同好者と共同研究を行うとともに地域青少年の演劇発表会を開催してその向上に資する。

開催地	期 日	参加人員
郡山市	35年 2月 6, 7日	100名
平市	2月13, 14日	100名
若松市	2月20, 21日	150名

上演劇団

郡山会場	会津演研，喜久田青年団，郡山演研
平会場	磐城演研，平演研，野田青年団
若松会場	喜多方演研，会津高校，会津第二高校，会津演研，劇団ブーボ

**G 文化功労賞**

文化功労賞は、本県において、永年の間学術、文化、（芸術・科学）の向上発展に貢献を行った第一人者に対して、賞金 5万円を贈呈して、その功に報いる制度で、昭和27年 5月制定された「福島県文化功労賞に関する規

則」により11月 3日文化の日に行うもので、昨33年度から 2名に授与することになった。

第1回 八代 義定	第2回 星 伊策
第3回 湯浅大太郎	第4回 庄司吉之助
第5回 大石 俊雄	第6回 新城猪之助
第7回 矢部保太郎，二瓶 清	

本年度第8回は

鈴木貞次郎（白河市，植物研究）  
正木 蔚（福島市，演劇実践）  
詳細は教育行政「表彰」参照のこと。

## 6 視聴覚教育

### A 県内の一般状況

本年度視聴覚教育における目標としては、①地域視聴覚ライブラリーの組織育成と充実。②視聴覚教育の指導者の養成を、前年度より引継ぎ努力してきたのであるが、ようやく全国水準よりやや上まわっている位置にあると見られる状況になっている。

近年益々、この教育の重要性は認識され、県内においても各地に研究会、講習会が数多く開催され、その内容も充実しつつあるのであるが、全般的に見ると、地域フィルム・ライブラリーは26もあり、組織面では一応できているのであるが、その内容についての教材教具の教育的活用は十分であると残念ながら言いにくい。勿論教材教具の貧困性が指導者を悩ませている最大の条件になっているが、視聴覚教育が学校教育においては計画的に全教育計画の中に明確な位置づけをもたなければならない。又、社会教育においても青年学級、婦人学級などの各種学級に、或は社会教育関係団体活動の中に有機的に取り入れ、しかも教材そのものの特性を生かし、総合的に利用する研究も一段と進めなければならない。しかもこれらの活動の中では、①内容を豊かにするために、②話し合いを一段と発展させるために、更に ③具体的実践の手がかりを得るために、視聴覚的方法を解明しなければならない。視聴覚教育を特別研究者の手段とのみせず、或は特別の方法であるような考え方を一掃するとともに、視聴覚本来の姿になるよう努力しなければならない。

### B 県視聴覚ライブラリーの現状

a、本年度未現在、日本製フィルムは 259本であり、内 51本は損傷フィルム、使用可能 208本である。U S I S は 865本（損傷 208）合計 1,124本で、内損傷 106本である。

映画フィルムの利用状況は、下表の通りであり、年間延53万 5千人が利用し、全県民の26%強がフィルムによる学習をしている。最も利用度の多い出張所管内は両沼で、信夫、耶麻、伊達、相馬、石城と並んでいる。なお、「子供は見てる」は現在まで 313回上映されている。